

「悔しい思いをしたとき どうしたらいいのでしょうか？」

平成 28 年 10 月 11 日

●高木正雄さんからの質問

アベノミクスは第一の矢（金融緩和）は評価できますが、第二の矢は不十分、また経済財政諮問会議等は小泉時代とほぼ同様、竹中平蔵中心、また今度太田弘子氏を加えました。これでは格差はひろがる一方でデフレは解消しません。

●西田昌司の答え

全く仰る通りですし、私もメンバーを変えるべきだと思います。

---

●松次郎さんからの質問

西田さんは、修験道の行者として護摩焚き等の修行をされているとお聞きしましたが、精神修養以外にもご利益はあるのでしょうか？

●西田昌司の答え

ご利益があるかどうかはわかりませんが、親父も含めて先祖代々修験道の修行をしています。毎年、年中行事を1つこなすことでほっとした気分になります。

---

●シンシン ソウシツさんからの質問

悔しい思いをしたとき、どうしたらいいのでしょうか。

●西田昌司の答え

「護摩でも焚いてください」というのは冗談ですが、(私も含めて)悔しい思いをしょっちゅうするのが人生というものです。しかし、その原因を考えると自分にあることがほとんどですし、自分を変えて自分を乗り越える以外に道はありません。護摩を焚くと非常に熱いですし大変な修行ではありますが、自分を変えて、新たな自分を見つけるためだと自分に言い聞かせながら私は修行をしています。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>